

大学開学 50 周年、学園創立 140 周年事業

125 年余り前の文化遺産と学術資料の購入

学園では節目の年にふさわしい事業で、これからの教育に貢献していきます。

存続の危ぶまれた樋口一葉ゆかりの質店、 文京区と連携し、学園が取得・保存

歴史的、文化的に
価値ある旧伊勢屋質店を
保存、運用していきます

明治の作家、樋口一葉ゆかりの旧伊勢屋質店を跡見学園が取得・保存。教室（菊坂跡見塾）としての活用とともに一般公開に向けて準備を進めていくことが決定しました。

一葉は、24歳という短い生涯の大半を文京区で過ごし、生活苦からたびたび本郷の伊勢屋質店へ通い、家族を養いながら小説家として「たけくらべ」などの名作を世に残しました。幕末の1860年に開業した伊勢屋質店は、土蔵、見世、座敷棟すべてが明治期の建物で、国の登録有形文化財となっています。個人での所有・管理が困難になり、一度は存続が危ぶまれた同建物。文学的史跡としても、また、明治の商家の面影を今に残し、当時の住まいの知恵や工夫を知るための建築遺構としても貴重な建物の存続に、「跡見学園が管理してくれるなら安心だわ」と、一葉ファンをはじめ多くの区民の方々が安堵の表情を浮かべていました。

一般公開に先駆け、本



住居の秘密に
びっくり!

学の一部の授業ではすでに教室としての活用を始め、教育の場として活かしています。この日は、文学部の日本文学の授業の一環で、20名ほどの学生が菊坂跡見塾を見学。質店という場所柄、出入りの際に顔が見られないように表とは別の出入り口があったり、大切な質草を保管する蔵に頑丈な錠前があったり、明治の質屋ならではの造りにみな興味津々で解説に聞き入っていました。蔵と見世の間の床下には、こねた粘土を保管しておく鉢があります。これは、火事が起きた際、蔵の隙間に粘土を塗り込んで火の燃え移りを防ぐためのもので、店主は常に粘土が乾燥しないように湿らせていたそう。建物にまつわる暮らしの知恵はつきまません。一般公開をお楽しみに！



1. 住居と蔵が一体となった珍しい造り。貴重品を多数管理する質店らしく、防犯・防火のための工夫があちこちに見られる。
2. 土蔵は明治20年移築、見世は明治40年、座敷棟は明治23年築。

森鷗外「舞姫」の直筆原稿を購入、 一般公開へ向け準備



1. 合同記者会見の様子。 2. 多くの質問が挙がった質疑応答。
3. ドイツ人女性エリスの描写で文字が乱れるなど、活字では伝わらない鷗外の感情、補訂の跡が見て取れる。

貴重な学術資料を購入
保存と運用の責任を果たします

4月28日(火)、跡見学園女子
大学多目的ホールにて、跡見学
園・文京区合同記者会見を開催
し、森鷗外「舞姫」の直筆原稿
を購入したことを発表しました。

森鷗外といえは明治の文豪と
して知られ、「舞姫」は鷗外自身
のドイツ留学をもとに書いた最
初の短編小説。日本近代文学の
代表格です。その原稿は、長ら
く個人が所蔵し、研究者でも簡
単に閲覧できるものではありません
でした。それが今年3月の
国際稀覯本フェアに出品された
ため、本学が購入に至りました。
購入の動機は、「舞姫」執筆時
の夫人、赤松登志子が跡見学園
出身者であり、学祖・跡見花蔭
の直弟子であることや、本学の
山崎一穎理事長が鷗外研究の第



貴重な複製本を交えて解説
する山崎理事長。

一人者であることなどが挙げら
れます。学園創立140年の節
目の年に、直筆原稿という極め
て貴重な資料が出現したことに
背中を押されたというもある
とか。「鷗外自身は、自分の原稿
が売買されるとは思っていな
かったはずですが、これで安ら
かに眠れるのでは。鷗外の居宅は
文京区であり、そのゆかりの地
に建つ跡見学園で保存すること
ができてほっとしています」とこ
やかに語る山崎理事長。一級品
の資料を跡見生だけでなく、広
く一般に公開する機会を設け、学
術的な貢献に活かしていきます。

朗読コンテスト開催のご案内

学園とも縁のある文学作品をテーマに
「朗読コンテスト」を開催します。

～一葉と鷗外 未来へつなぐ文化遺産～
平成27年度 文の京ゆかりの文化人顕彰事業

開催日時：平成27年10月18日(日)
午後1時開演

会場：跡見学園女子大学プロッサムホール
(文京キャンパス)

主催：文京区 主管：跡見学園女子大学

協力：NHK放送研修センター日本語センター

概要：文京区にゆかりの作家の作品を朗読。
全国公募し、コンテスト形式で優秀者
を選び、表彰します。

課題作：樋口一葉「たけくらべ」「十三夜」

「樋口一葉日記」
森 鷗外「舞姫」「雁」「山椒大夫」
「最後の一句」

応募・観覧その他の詳細については、

〈跡見学園女子大学HP〉

<http://www.atomi.ac.jp/univ/>

〈文京区HP〉

<http://www.city.bunkyo.lg.jp/>

でご確認ください。